

園歌

作詞 吉田 三郎 氏 作曲 渥美 芳映 氏

松寿園のうた

吉田三郎 作詞
渥美芳映 作曲

Moderato

1. 花-い じ-た い-な の あ-ん け-し み
2. は-な こ-も か-お の 母-つ か-い

あ-る か-に う-け て わ-たし た-ち
あ-る い-で む-ね に

す-み せ に ま-た う-つ く し く い-さ ら し あ-せ たい て ま-す
く-さ の け-こ-の あ-つ っ け ら-れ っ け し ん-は ら い-ろ に か-り ま-す

花とも香る なつかしい
思い出の胸に 立つ庭の
草の葉ごとの 朝露が
真珠の様に 光ります
こころの奥に 湧いてくる
この香はよ いつまでも

松の緑よ いつまでも
ま-す み の 空 に 照-り 映-え-る
松の緑よ い-つ ま-で も

松寿園のうた
吉田三郎 作詞
渥美芳映 作曲

前奏

(2nd. rit.)

【作詞の意図】

- ・お寺さんによる創設であることを中心に、世の恩恵を受けていることの感謝の気持ち、松寿園の名にちなんで松を、その常緑に象徴されるいつまでの若さを保って、健康で美しく生きようとする願いを込めたもの
- ・老人は思い出の中に生きている。長い人生の歩みを反芻してそれらが朝露のように輝くものであることに、悔いの無かった来し方であったことに喜びを沸かせる。その喜びが長く続くことを願う気持ちを込めたもの。